



矢倉かつお NEWS

Yakura katsuo news

Vol.3 平成 26 年 5 月号 発行 公明党参議院埼玉選挙区第 1 総支部



予算委員会において総理に質問



3月12日に参議院予算委員会の場で安倍総理に対し、直接、質問をいたしました。項目は、日中・日韓関係の改善と、被爆国日本として核なき世界に向けての取り組みの2点に絞り質問。

日中・日韓関係の改善について、2006年秋における安倍総理（当時）電撃訪中の際、中国上海にいた私自身の経験に触れながら、相手の懐にはいる度量と勇気をもった外交を！首脳会談の実現を！と訴える私に対し総理は「日中・日韓・日中韓の関係がアジアの安定のために重要であり、同世代でもある習主席や朴大統領とは、大局的見地にたって関係がつかれるよう、努力・尽力していきたい！」と強く決意を表明しました。また、核なき世界に向けての取り組みについて、被爆三世の方の訴えを引用しながら、国際会議で核廃絶に向けての強いメッセージを発するよう総理に促したところ、総理から唯一の被爆国である我が国の立場を十分に主張する、との力強い答弁がありました。



決算委員会において質問

4月21日に決算委員会にて太田国土交通大臣、谷垣法務大臣、林農林水産大臣と、三人の大臣に質問。内容は、谷垣大臣に対し「国際訴訟に強い法曹養成の必要性」、林大臣に対し「耕作放棄地担い手対策」、そして、太田大臣に対しては、「圏央道などの早期完成」、「公共事業のあり方」についてです。特に公共事業に関しては、予定価格や工期の問題を指摘し改善を促しました。

太田大臣から「工期ということについてはこれまでも国会で余り指摘がなかった」と前置きされたのち、「発注の平準化をすすめる、資材調達に必要な期間を見て余裕をもった工期を設定する、あるいはまた、年度を越えて工期を延長する必要がある場合には適切に（予算の）繰越



手続をする、簡単にできるようにする」といった具体的な提案がありました。私からは「予測できない資材不足などの事情の場合、工期を柔軟に変更できるなどの条件も考えるべき」と訴えました。

「日豪若手政治家交流プログラム」に参加

ゴールデンウィークの最中、超党派での「日豪若手政治家交流プログラム」に参加し、オーストラリアを訪問。連邦議会や政党本部、政策研究所、教育機関（シドニー大学等）を訪ねるとともに、同国の国会議員や州議会議員など10数名と個別に会談・交流し、友好を深めてまいりました。



マイケル・ロナルドソン上院議員と超党派交流団のみなさんと共に

オーストラリアの国会議員の方々とは、外交・防衛・経済・教育・文化等、様々な議論をしました。収穫の一つは、日本とオーストラリアの繋がりが、とくにアジア太平洋地域における秩序維持に重要であるとの認識を共有できた点です。今回の渡豪の経験を活かし、委員会での質問にも取り上げています。

日豪関係は、アジア・太平洋地域の安定にとって重要。今後は、日豪友好議員連盟の幹事としても活動してまいります。